

平成 14 年度 財政論：期末試験

2003 年 1 月 21 日（火）実施

< 解答・採点基準 >

[第 1 問]

均衡下の社会的余剰を図示して 5 点、不均衡下の社会的余剰を図示して 5 点。
社会的費用・便益と私的費用・便益が乖離することについて理解していれば 5 点。
死重損失を図示して 10 点。

[第 2 問]

伝統的見解などに言及して適切ではないことを指摘して 5 点。根拠を示して 5 点。
根拠の例は、「国民にとっては負債であると同時に資産でもあるから」、「公債償還時には公債保有者に資金が還元されるから」など。負債の面と資産の面を併記していればよい。
世代交代により公債発行時の受益者と公債償還時の負担者が異なる場合には「将来世代の負担」が生じる（10 点）。受益世代からと負担世代への自発的な遺産が存在する場合には「将来世代の負担」が生じない（5 点）。

[第 3 問] 以下に挙げる 2 つの概念の違いについて、それぞれ簡潔に説明しなさい。

フローは一定期間の経済活動、ストックは特定時期の蓄積残高。
社会資本は資本の性質による分類、政府資本は資本の所有者による分類。
非排他性（共同消費の性質）、排除不能性。

[第 4 問]（注：計算過程がない場合には 4 割）

$$\text{政府支出乗数} = \frac{1}{1-x} \text{ より } x=0.8$$

$$\text{減税乗数} = \frac{x}{1-x} = \frac{0.8}{1-0.8} = 4$$

財政均衡乗数は常に 1

$$\text{または「財政均衡乗数} = \text{政府支出乗数} - \text{減税乗数}」\text{より } \frac{1}{1-x} - \frac{x}{1-x} = 1$$

$$\frac{1}{1-x} - a \frac{x}{1-x} = 2 \text{ より } a=0.75$$

[第 5 問]

（A）22（B）21（C）20（D）10（E）17（F）2（G）12（H）23（I）24（J）14
ヘドニック・アプローチの説明（3 点）

社会資本が豊富な地域は効用水準が高くなるために他地域からの移住が増加し、地価が上昇する。つまり、社会資本がもたらす効用への効果は地価に反映されるはずである。

他地域からの移住の不完全性について（2 点）

現実には、移動に関わるコストの問題等から、地域間の効用水準の差に反応して移住がスムーズに行われるとは限らない。